

(19) 日本国特許庁(JP)

## (12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2009-281371

(P2009-281371A)

(43) 公開日 平成21年12月3日(2009.12.3)

(51) Int.Cl.

F03G 3/00  
F03G 7/10(2006.01)  
(2006.01)

F 1

F O 3 G 3/00  
F O 3 G 7/10

A

テーマコード (参考)

審査請求 未請求 請求項の数 1 書面 (全 13 頁)

(21) 出願番号

特願2008-160975 (P2008-160975)

(22) 出願日

平成20年5月24日 (2008.5.24)

(71) 出願人 508184480

原 満雄

長崎県長崎市青山町 361 番27号

(72) 発明者 原 満雄

長崎県長崎市青山町 361 番27号

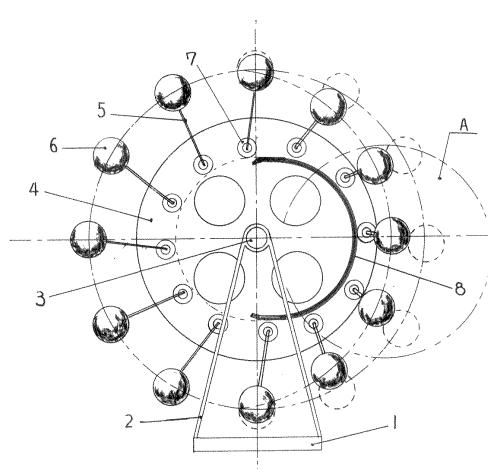
(54) 【発明の名称】永久機関

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】化石燃料等を使用し続ければ、地球環境を著しく破壊するだけでなく、温暖化を加速させる一方である。

【解決手段】連結体5に内蔵されたピニオンギア装置の内端に設けた車輪7をガイドレール8に沿わせながら回転体4が回転することによって、前記回転体4上の前記連結体5の先端に支持された鉄球6の半径方向位置が変化し、それにもなって発生する回転軸3に対する左右の重量アンバランス力をを利用して前記回転体4を永久に回転させる。

【選択図】図2



## 【特許請求の範囲】

## 【請求項 1】

永久機関の作動原理

## 【発明の詳細な説明】

## 【技術分野】

## 【0001】

本発明は、化石燃料等を使用せず公害も出さず、また、現在特に地球温暖化になりつつある状況を少しでも阻止するため。

## 【発明の開示】

## 【発明が解決しようとする課題】

## 【0002】

現在のエネルギー（化石燃料等）では、地球環境を著しく悪い方向へ向かいつつ、このままでは、私達の生命だけではなく、子孫及び地球全ての生態系への悪影響を、及ぼしかねない。

## 【課題を解決するための手段】

## 【0003】

永久機関

## 【発明の効果】

## 【0004】

永久機関はクリーンなエネルギー源である。

10

## 【産業上の利用可能性】

## 【0005】

発電機関係

## 【図面の簡単な説明】

## 【0006】

## 【図1】平面図

## 【図2】正面図

## 【図3】正面図A部拡大図

## 【図4】5の部品平面図

## 【図5】5の部品正面図

30

## 【図6】7の車輪、8のガイドレール取付図

## 【図7】車輪の転がり原理図

## 【図8】同上

## 【図9】6の鉄球の作動変化図

## 【0007】

1 台座

40

2 支柱

3 回転軸

4 回転体

5 部品枠及び連結体

5-1 回転ギア

5-2 鉄球側ピニオンギア

5-3 車輪側ピニオンギア

5-4 ケース

5-5 ストップバー

5-6 取付穴

6 鉄球

7 車輪

8 ガイドレール

9 バネ

50

## 【0008】

わかりやすく説明をする為に、図面上では、12等分で画いているが、6の鉄球は24等分又は、それ以上数が多いほど、力も大きくなることを前提に説明をすれば、図3のA部の拡大図で、5の部品を5-6で4の回転体に取付けている。

## 【0009】

5の部品は、図4の5-1回転ギア及び5-2、5-3のピニオンギアによって、互いが逆方向に動くようにしている。

## 【0010】

図3の取付角度 $\times^\circ$ は、8のガイドレールと接する7の車輪で決定するわけだが、永久機関の大きさ又、鉄球の作動させる範囲で $\times^\circ$ は変化していく。

10

## 【0011】

7の車輪をどの位置で回転（ガイドレールのない状態の時）させるか、それは必要な力を考慮しながら、円の大きさを決定したうえで、8のガイドレールも必然的に決まってくる。

## 【0012】

図6に示すように、回転本体の中心PよりガイドレールのポイントP'をどれだけずらすかで、ガイドレールに7の車輪が接し始めるガイドレールの下部の直線より曲がりに移行する部分で角度 $\times^\circ$ を決定する。

## 【0013】

ガイドレールの部品は縦の中心線を基準に半分だけとする。当然、遠心力が働くわけだがその防止策として、図4の5-5のストッパーで飛び出すのを防いでいる。

20

## 【0014】

鉄球とバネの力関係は前文にも述べているように、永久機関の製作する大きさによって異なるが、重りとなる鉄球を真上にした状態で支えられるだけの力と鉄球を作動させる範囲を考慮して、バネの長さを決定しなければならない。

## 【0015】

図4の9のバネは鉄球と車輪を押し広げようと（バネがもとに戻ろうとする力）常に力がかかっているわけだが、5の反転ギアによって7の車輪はガイドレール接しながら押し出されてゆく。

## 【0016】

7の車輪が押し出された分だけ逆に鉄球が引き込まれる為に、図9で示すように重量のバランスがくずれ回転運動を行う。

30

## 【0017】

図9でわかるように、Y線を基準に左右の鉄球の位置関係は、 $M = F \times L$ であり、詳細な説明は図9とする。

## 【0018】

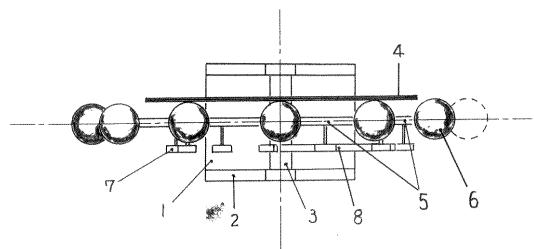
図8でわかるように、

- 1、バネの復元力（もとに戻ろうとする力）
- 2、車輪が転がる角度
- 3、重りの位置変化

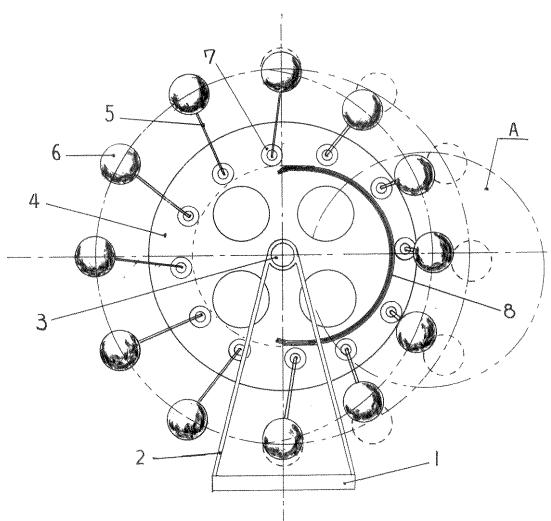
40

この3点が合成されたのが、永久機関の原理である。

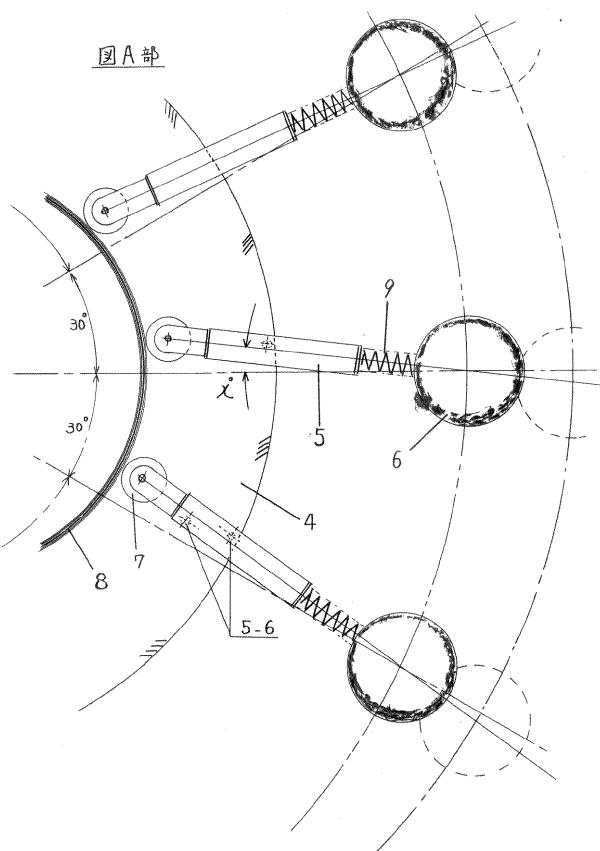
【図 1】



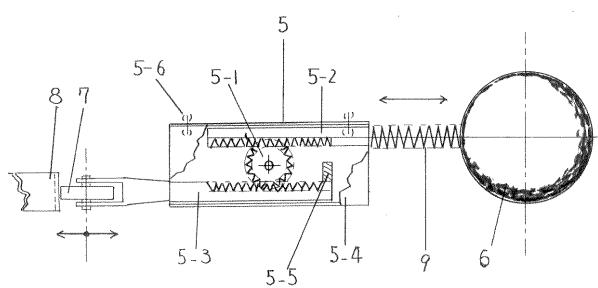
【図 2】



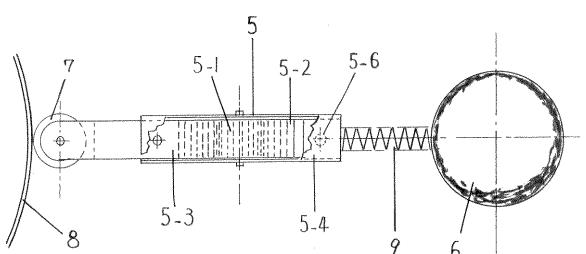
【図 3】



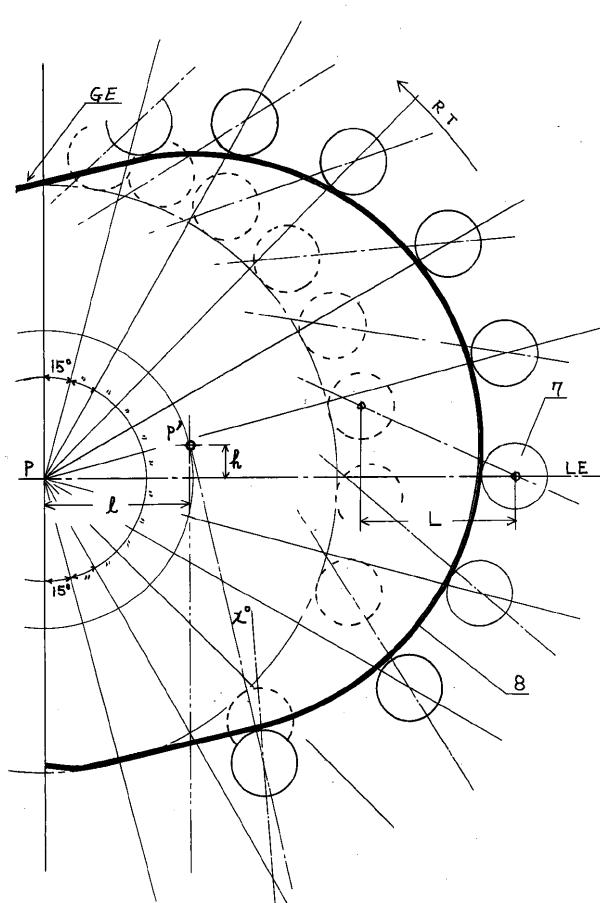
【図 4】



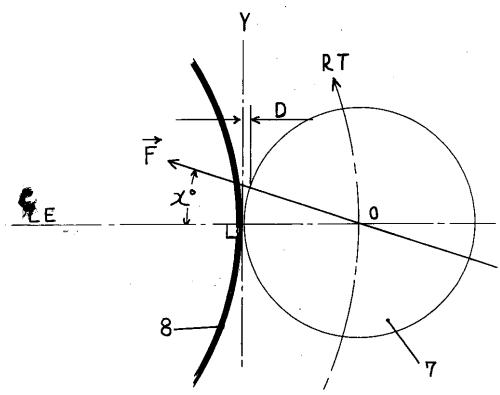
【図 5】



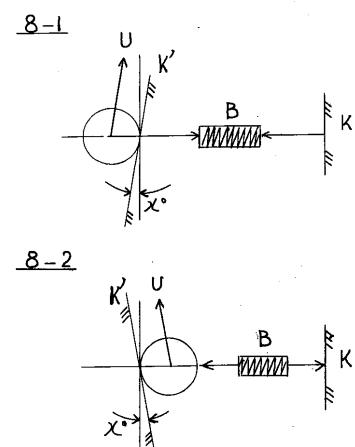
【図 6】



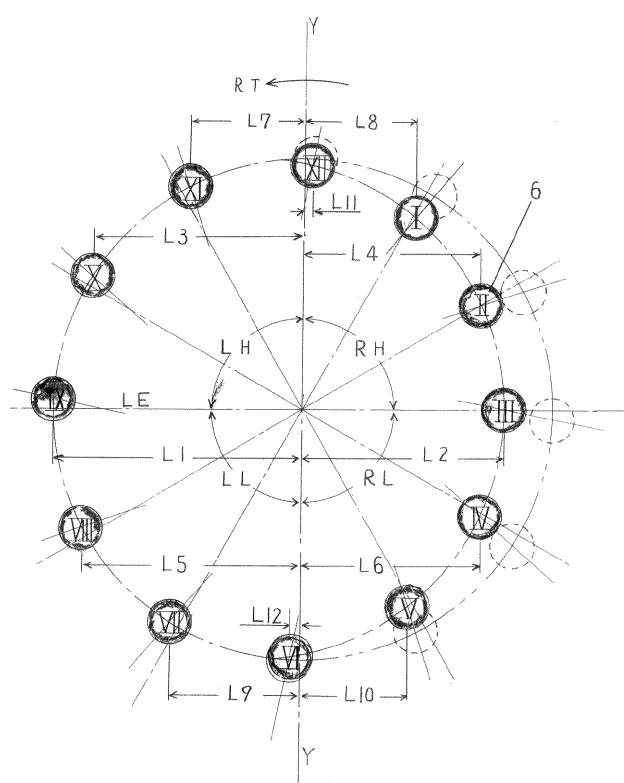
【図 7】



【図 8】



【図 9】



**【手続補正書】****【提出日】**平成21年5月17日(2009.5.17)**【手続補正1】****【補正対象書類名】**明細書**【補正対象項目名】**0006**【補正方法】**変更**【補正の内容】****【0006】****【図1】**平面図**【図2】**正面図**【図3】**正面図A部拡大図**【図4】**5の部品平面図**【図5】**5の部品正面図**【図6】**7の車輪、8のガイドレール取付図**【図7】**車輪の転がり原理図**【図8】**5の反転ギヤを使用せずの図**【図9】**6の鉄球の作動変化図**【手続補正2】****【補正対象書類名】**明細書**【補正対象項目名】**0007**【補正方法】**変更**【補正の内容】****【0007】**

- |       |             |
|-------|-------------|
| 1     | 台座          |
| 2     | 支柱          |
| 3     | 回転軸         |
| 4     | 回転体         |
| 4 - 1 | 過度倒角止めストッパー |
| 5     | 部品枠及び連結体    |
| 5 - 1 | 回転ギア        |
| 5 - 2 | 鉄球側ピニオンギア   |
| 5 - 3 | 車輪側ピニオンギア   |
| 5 - 4 | ケース         |
| 5 - 5 | ストッパー       |
| 5 - 6 | 取付穴         |
| 6     | 鉄球          |
| 7     | 車輪          |
| 8     | ガイドレール      |
| 9     | バネ          |

**【手続補正3】****【補正対象書類名】**明細書**【補正対象項目名】**0008**【補正方法】**変更**【補正の内容】****【0008】**

わかりやすく説明をする為に、図面上では、12等分で画いているが、6の鉄球は24等分又は、それ以上数が多いほど、力も大きくなることを前提に説明をすれば、図3のA部の拡大図で、5-6の取り付け部品は、角度30°を保つ可動式であり、ボルトに支えられている。

**【手続補正4】**

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0012

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0012】

図6に示すように、回転方向(RT)は、中心線(Y垂線)を超えた時点で、倒角度(30°)に移行を始める。鉄球及び、鉄球を支える5の連結体の重量、又、バネの復元力によって、4の回転体に取り付けた8のガイドを、7の車輪は中心方向へと下がる。車輪が移動を行うことで、鉄球は外側へ移動し、本来の位置へ戻り重量を加える。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0013

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0013】

この循環の繰返しだが、当然遠心力が働くわけで、その防止策として、図4の5-5のストップバー及び、8のガイドで飛び出すのを防いでいる。

【手続補正6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0018

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0018】

図8では、全く逆のパターンで、鉄球を外側へ移動させる図である。

この図でわかるように、回転方向は右回転であり、前文で述べているように、鉄球及び、鉄球を支えるアーム本体の重量と共に、ガイドによって押し出された鉄球の移動(L)の重量が加わり、回転するわけだが、回転の速度によって遠心力が働き、効率的にはあまり好ましくない。

1. バネの復元力(元に戻ろうとする力)

2. 車輪が転がる角度

3. 重りの位置変化

この3点が合成されたのが、永久機関の原理である。

【手続補正7】

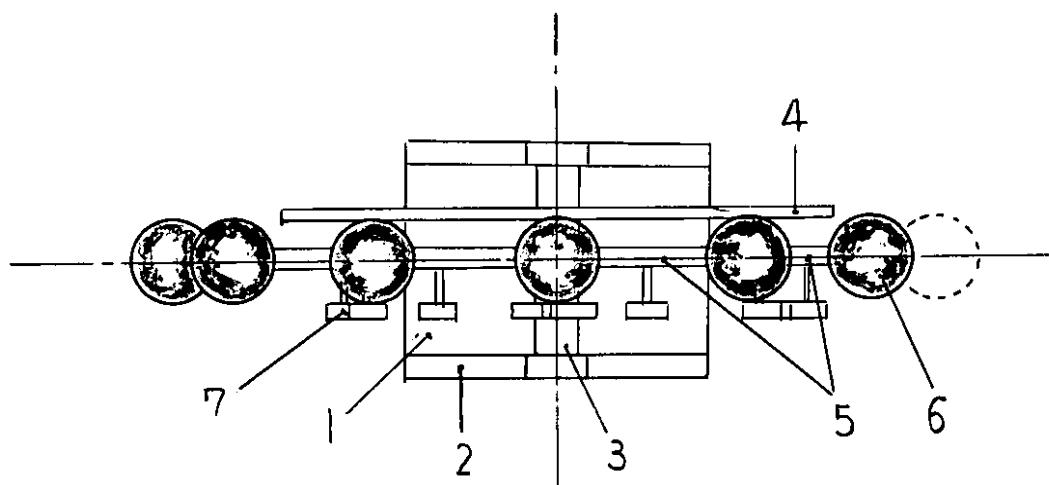
【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 1】



【手続補正 8】

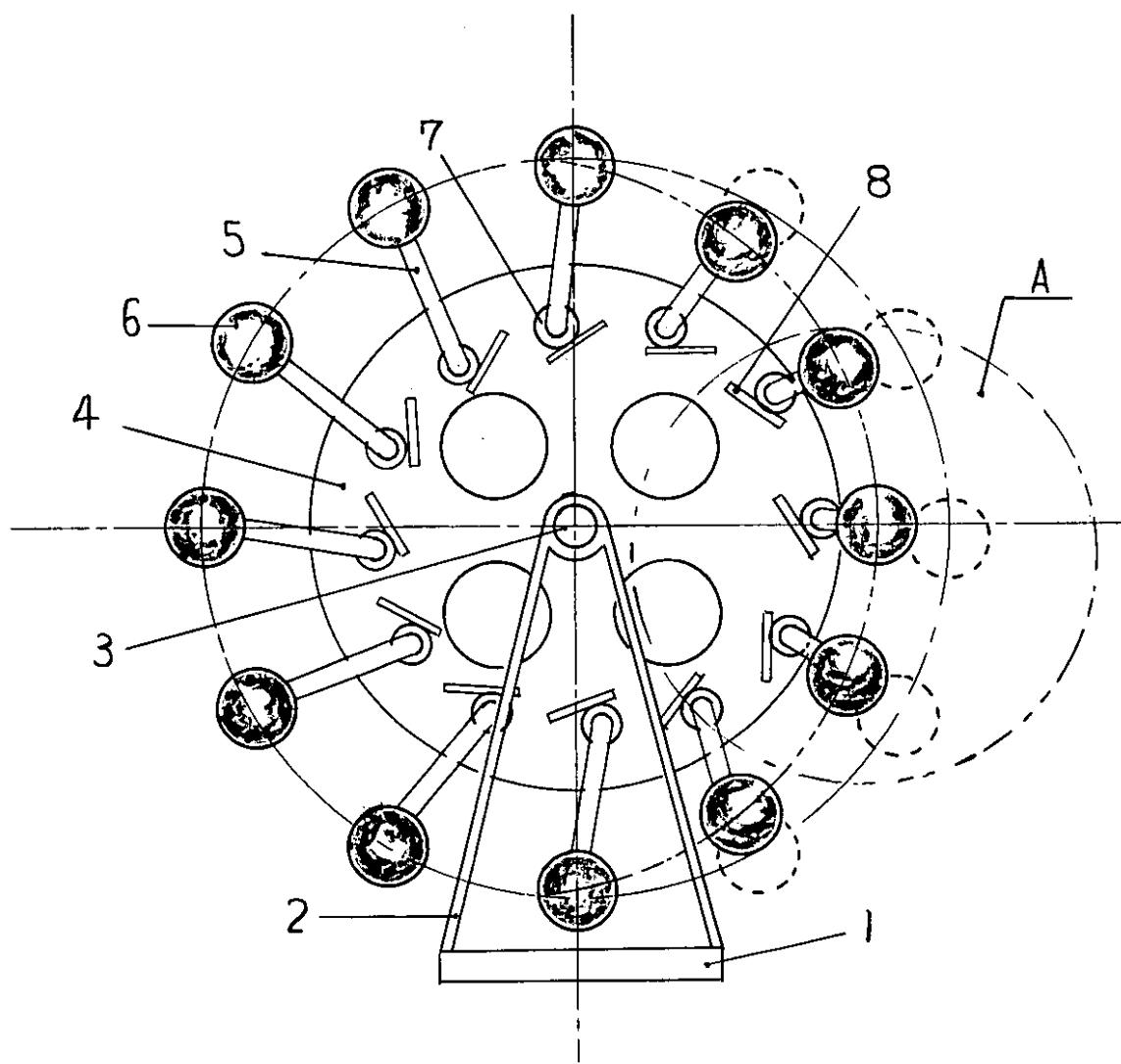
【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 2】



【手続補正 9】

【補正対象書類名】図面

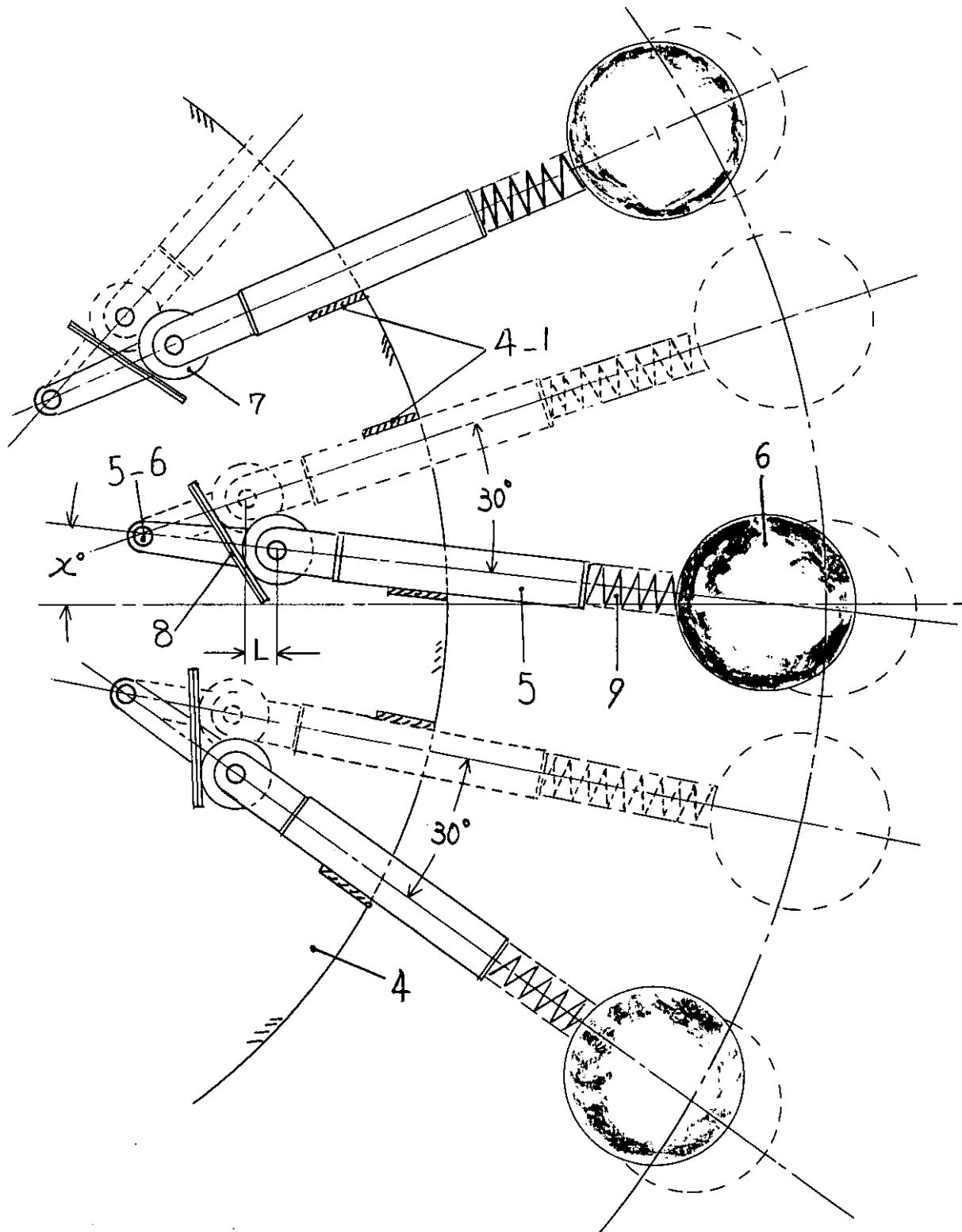
【補正対象項目名】図 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 3】

図A部



【手続補正 1 0】

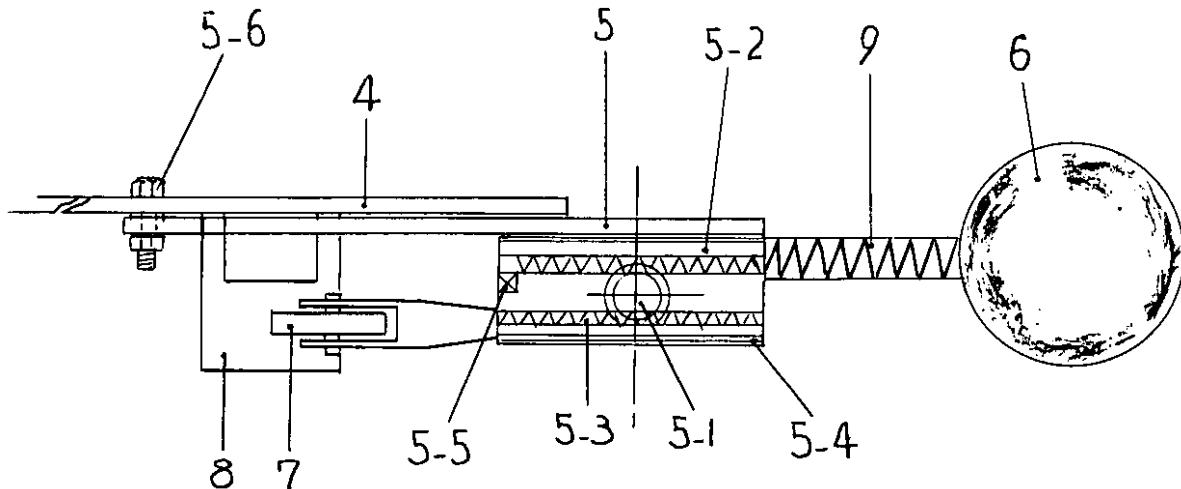
【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 4】



【手続補正 1 1】

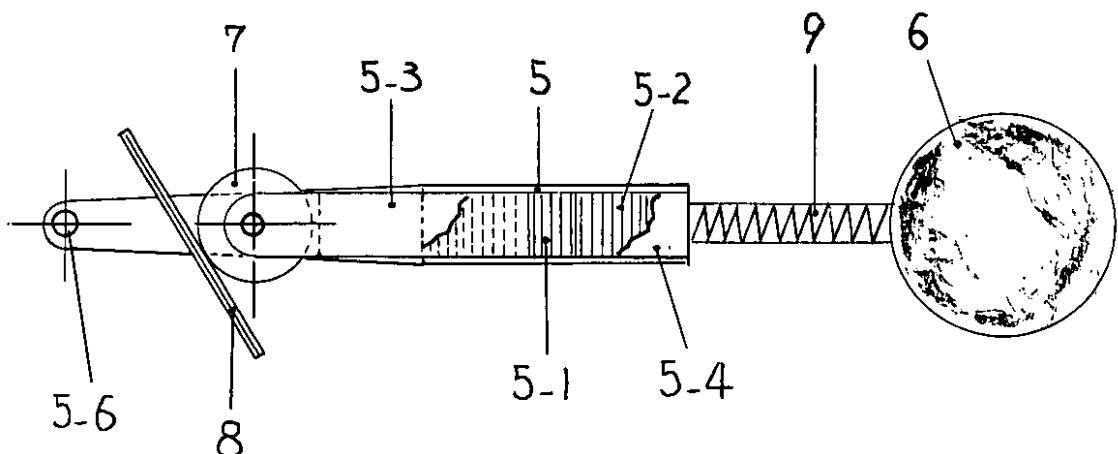
【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 5】



【手続補正 1 2】

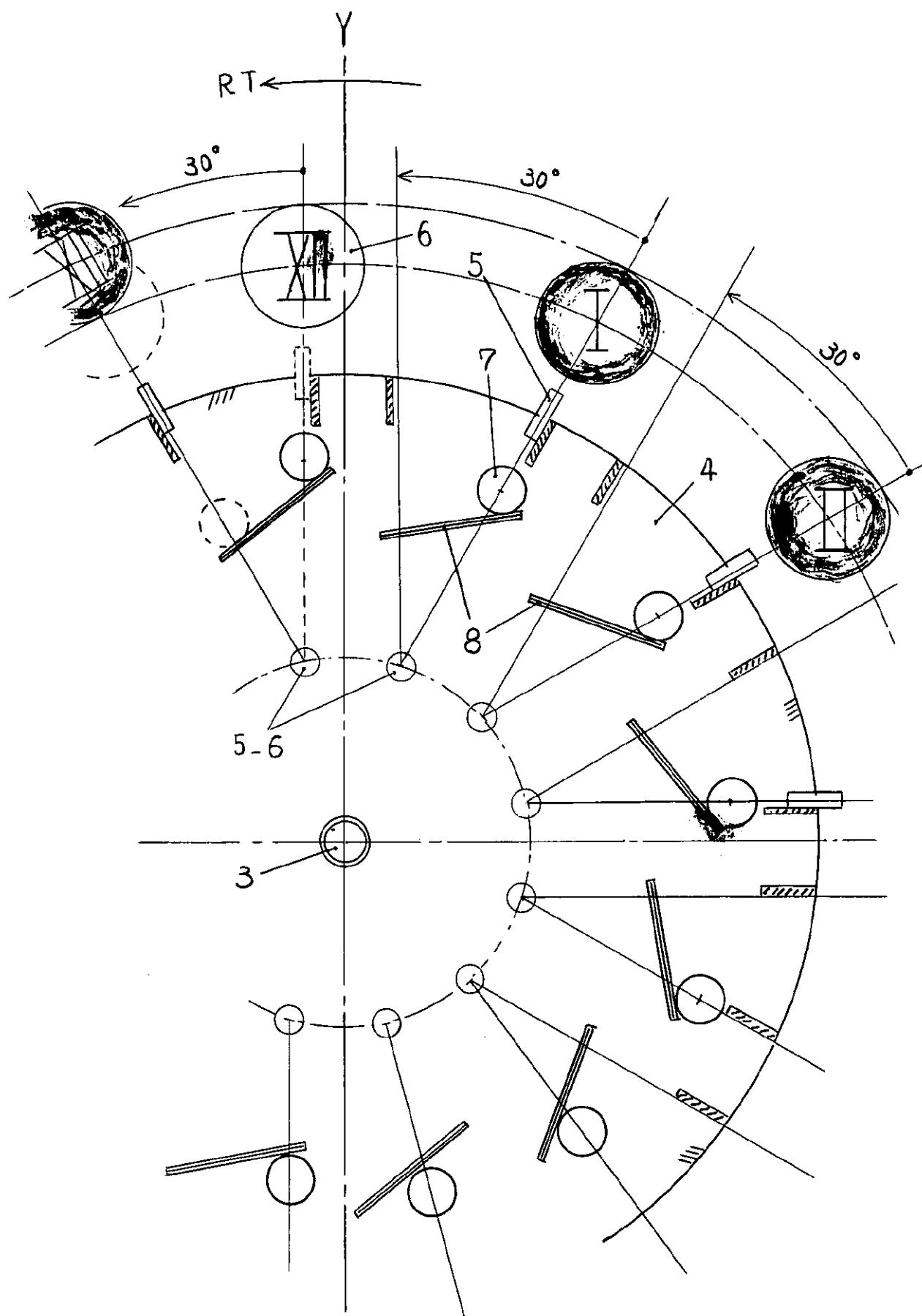
【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 6】



【手続補正 1 3】

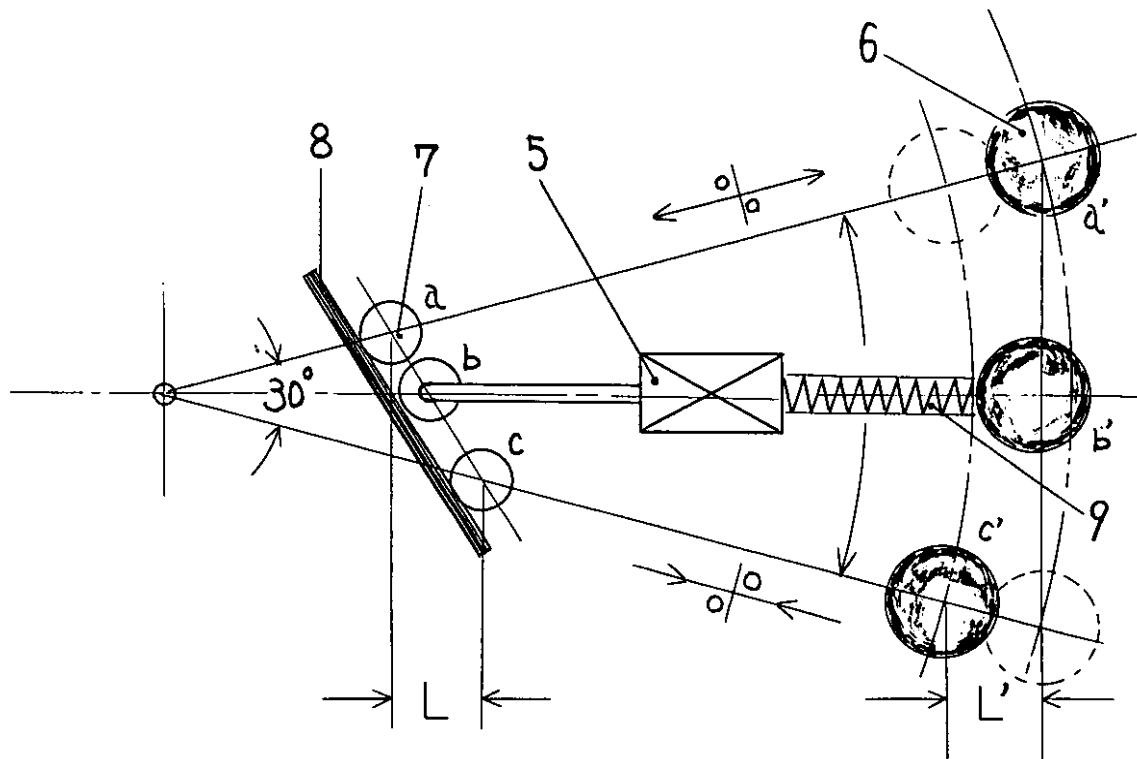
【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 7】



【手続補正 1 4】

【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 8】

